



子育て四訓



①乳児はしっかり肌を離すな = 基本的信頼感

☆生まれて1年間は、ほとんど受身の状態。

お世話をしてもらおう中で、しっかり抱かれることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ、信頼し安心します。それが、愛情や信頼、情緒安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤となります。

②幼児は肌を離せ、手を離すな = 自律性・自主性

☆幼児は乳離れをするが、一気に離すのではなく、常に親がそばにすることで、「心配しなくてもいいよ」という安心感を与えることが大切です。

自立に目覚める幼児期は、安全な保護者から社会に向けて一歩を踏み出す時期といえます。



③少年は手を離せ、目を離すな = 勤勉性

☆学童期は、友だちとの付き合いによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやらないといけません。でも、いろんな危険があるので、目を離してはいけません。

この時期は遠くから見守り、子供が何かで声をあげると助けてあげましょう。

④青年は目を離せ、心を離すな

☆青年期にまでなると、完全に自立していくために自分なりの生きがい・進路を歩んでいくときであるが、気持ちの上では、心を離してはいけないということである。

いずれにしても、子育ての最終的な責任は親にあるという基本を忘れてはいけません。

子育て四訓 山口県在住教育者が提唱 / 参考資料 エリク・H・エリクソンの発達段階論



- ①お手本を示してあげる
- ②わかるようにくり返し教えよう
- ③認めてほめてあげる
- ④長い目で見守る



いつでも思い出してね!

